

(抜粋)

練馬光が丘病院改築に係る基本構想策定懇談会
提言

平成 27 年 12 月

練馬光が丘病院改築に係る基本構想策定懇談会

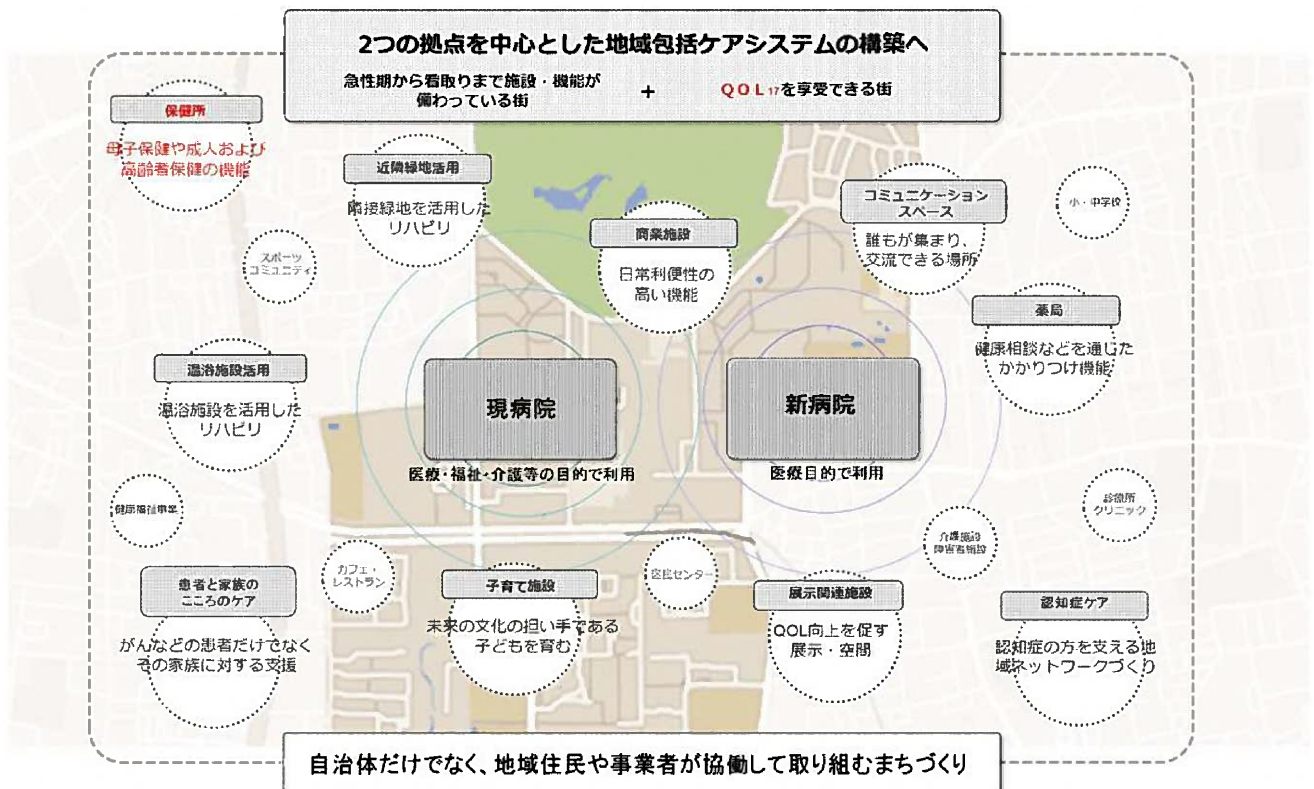
(2) 現病院建物について

ア. 地域で求められる地域包括ケアシステム

現病院は築後29年が経過し、院内の設備インフラは老朽化が進んでいるものの、建物躯体の耐用年数としては今後も使用可能である。そこで、旧光が丘第七小学校跡地に新病院が建設された後、現病院建物を有効に活用すべき旨の意見があった。

その活用方法については、医療や介護を必要とする時だけでなく、普段から地域で安心して暮らし続けることが可能な地域づくり、地域包括ケアシステムの一翼を担う施設のひとつとして、新病院と相互に補完・連携し合う機能を持たせることが望ましい、という内容で整理した(図7参照)。具体的には、高齢者だけでなく若い世代向けの機能の充実や、地域での見守り等認知症の方に対するケアが重要である旨意見が挙がった。

【図7】2つの拠点を中心とした地域発展イメージ



17QOL・・・生活の質 (Quality Of Life) の略。病気にかかっている人や高齢者の生活の満足度や幸福感を高めることを目的に考案された考え方。

イ. 現病院建物活用の基本コンセプト

練馬区では、今後2025年までは後期高齢者¹⁸が急増し、その後は横ばいとなることが見込まれる。一方で前期高齢者¹⁹は、2025年まで減少していくものの、その後は急増すると推計されている。こうしたことから、必要となるサービスの範囲や量が変わっていくことが予想される。

懇談会では、こうしたニーズの変化を考慮し、現病院建物の活用について3つの方向性を整理した（図8参照）。

現病院建物活用は、新病院開院後に整備されるため、現段階でこれら3つの方向性の取捨選択をするのではなく、今後、具体的な整備を計画する段階で、今回整理した3つの方向性を基に1つを選ぶ、あるいは各方向性の要素を組み合わせるなどが望ましいとした。

【図8】現病院建物活用の方向性

	医療を中心とした 相互補完および連携	介護を中心とした 相互補完および連携	コミュニティ機能の充実による 相互補完および連携
新病院の役割	●急性期医療	●回復期リハビリテーション機能	●地域包括ケア機能
現病院建物の 基本コンセプト(案)	新病院(医療)の機能補完及び連携の強化により、 医療・介護サービスを受けながら安心して暮らせる街づくり		
建物活用の方向性	在宅復帰支援を中心とした 医療機能の補完	介護サービス全般の充実化	同世代および世代間の コミュニティ醸成
整備する機能例	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・訪問リハビリテーション ・回復期リハビリテーション 病床 ・地域包括ケア病床 など	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・訪問介護 ・介護老人保健施設(老健) など	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティラウンジ ・キッズスペース など

¹⁸後期高齢者・・・75歳以上の方のこと。

¹⁹前期高齢者・・・65～74歳の方のこと。